ふりがな　　もり　たかひと

氏 名　　森 宜人

1. 学歴

2000 年　3 月　一橋大学社会学部卒業
2000 年　4 月　一橋大学大学院社会学研究科総合社会科学専攻修士課程入学
2002 年　3 月　同課程修了，修士（社会学）
2002 年　4 月　一橋大学大学院社会学研究科総合社会科学専攻博士後期課程入学
2005 年　3 月　同課程修了，博士（社会学）

2. 職歴・研究歴

2003 年 4 月 － 2005 年 3 月　日本学術振興会特別研究員（DC）
2003 年 8 月 － 2004 年 10 月　ギーセン大学歴史学研究所近代史第 1 部門客員研究員
2005 年 4 月 － 2006 年 3 月　一橋大学大学院社会学研究科助手
2006 年 4 月 － 2009 年 3 月　関東学院大学経済学部専任講師
2009 年 4 月 － 2012 年 3 月　関東学院大学経済学部准教授
2012 年 4 月 －　一橋大学大学院経済学研究科准教授

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

（a）学部学生向け

経済史入門，経済史 A，基礎ゼミ，EU 入門

（b）大学院

西洋経済史，比較経済史，経済史特殊問題，ワークショップ／リサーチ・ワークショップ（経済史）

B. ゼミナール

学部前期，学部後期，大学院

C. 講義およびゼミナールの指導方針

「経済史入門」では，近年の経済史の代表的なテーマの紹介を通じて，経済史学のあり方を提示している。本講義の目的は，経済史を学ぶ上で必要とされる基礎的な知識や分析視角を受講生に身につけてもらうことにある。「経済史 A」では，近代ヨーロッパを事例として，都市化や工業化など現代社会形成の基礎となる社会構造の変動をテーマに取り上げ，その前提となる政治的・文化的枠組みにも着目する。本講義では，ヨーロッパ社会の歴史的位相を把握するだけでなく，地域研究に必要な分析視角を社会経済史の観点から提示することを目指す。「基礎ゼミ」では，経済史の基本文献の輪読を行い，受講者に経済史研究の入門的な体験が出来る場を提供する。大学院の「西洋経済史」では，近代ヨーロッパ経済史に関する英語ないしドイツ語の専門文献の輪読を通じて，最新の研究動向に触れる機会を設ける。「比較経済史」では，経済史学の古典や最近の注目すべき文献を手がかりに，市場経済の展開過程を比較史的観点より検討している。

学部のゼミナールでは，3 年次の近現代ヨーロッパ経済史に関する文献の輪読と，4 年次の卒論執筆を通じて，現代社会が形成された歴史的経路を把握するとともに，歴史学的な思考方法を涵養することを目指す。大学院のゼミナールでは，履修者の研究報告にもとづく論文執筆の指導に重点を置き，1 次史料に基づく緻密な実証分析の方法を体得してもらう。

4. 主な研究テーマ

一貫した研究課題は，主に 19 世紀後半～20 世紀前半のドイツをフィールドとして，近現代ヨーロッパの社会変動を都市経済史の観点から把握することである。具体的な研究テーマは次の通りである。

（1）都市化と電力業の展開

フランクフルト・マム・マインの電力業の分析を通じて，都市自治体給付行政の歴史的特質を明らかにするとともに，都市への電力導入から電力の必需化にいたる都市電化のプロセスを辿り，近代都市形成の実像を明らかにした。この成果は，単著『ドイツ近代都市社会経済史』として上梓した。

（2）「社会都市」の政策理念

19/20 世紀転換期は，国家的社会保障が未整備な中，都市自治体が生活環境の物理的改善と社会政策の展開を通じて，住民に一定の生活条件を保障した「社会都市」の局面と位置づけられる。ドイツでは，「都市の社会的課題」とよばれる政策理念が「社会都市」形成の原動力となったので，この政策理念の思想的研究に取り組んでいる。

（3）都市失業保険の展開と「社会都市」・「社会国家」

ドイツで国家的失業保険が成立するのは両大戦間期のことであるが，都市レベルではすでに 1900 年代よりその萌芽がみられた。この都市失業保険の展開過程を，ベルリンなどの個別都市の事例に即して実態分析を行い，第一次世界大戦前後の「社会都市」と「社会国家」の重層的関係の解明を目指している。

5. 研究活動

A. 業績

（a）著書・編著

『ドイツ近代都市社会経済史』日本経済評論社，2009 年 2 月，1-276 頁。

Elektrifizierung als Urbanisierungsprozess. Frankfurt am Main 1886-1933 (Beiträge zur hessischen Wirtschaftsgeschichte Bd. 9), Darmstadt, November 2014, S. 1-132.

福田徳三研究会編（西沢保・森宜人編集）『福田徳三著作集第 10 巻 社会政策と階級闘争』信山社，2015 年 10 月。

森宜人・石井健（編著）『地域と歴史学―その担い手と実践―』晃洋書房，2017 年 11 月。

（b）論文（査読つき論文には*）

*「ドイツ近代都市における自治体給付行政とその諸問題－フランクフルト・アム・マインにおけるオストエンド・プロジェクトを事例に―」『一橋論叢』第 129 巻第 2 号，2003 年 2 月，93-108 頁。

*「フランクフルト国際電気技術博覧会とその帰結―近代ドイツにおける都市電力ネットワーク形成の一モデル―」『社会経済史学』第 69 巻第 5 号，2004 年 1 月，19-38 頁。

*「都市化時代の大都市と周辺自治体―世紀転換期フランクフルトにおける合併と電力網の拡張―」『一橋論叢』第 133 巻第 2 号，2005 年 2 月，138-154 頁。

*「ヴァイマル期ドイツにおける都市の電化プロセス―フランクフルト・アム・マインを事例として―」『社会経済史学』

第 71 巻第 2 号，2005 年 7 月，49-70 頁。

「黎明期の都市電化―第二帝政期フランクフルトを事例として―」土肥恒之（編著）『地域の比較社会史―ヨーロッパとロシア―』日本エディタースクール出版部，2007 年 10 月，137-169 頁。

*「広域発電網確立期における都市電力業―ヴァイマル期フランクフルトを中心に―」『歴史と経済』第 198 号，2008 年 1 月，17-31 頁。

*「世紀転換期ドイツにおける都市政策理念―1903 年ドイツ都市博覧会を中心に―」『西洋史学』第 232 号，2009 年 3 月，23-43 頁。

「ドイツ社会政策学会における近代都市論―K.ビュッヒャーの所論を事例に―」関東学院大学経済学会『経済系』第 240 集，2009 年 7 月，24-42 頁。

*「『社会都市』における失業保険の展開―第二帝政期ドイツを事例として―」『歴史と経済』第 211 号，2011 年 4 月，3-12 頁。

*「ヴィルヘルム期ドイツにおける都市失業保険―大ベルリン連合を事例として―」『社会経済史学』第 77 巻第 1 号，2011 年 5 月，71-91 頁。

*「戦時失業扶助と『社会都市』―第一次大戦期ハンブルクを事例として―」『社会経済史学』第 80 巻第 1 号，2014 年 5 月，37-58 頁。

"Defending the municipal electric services against privatization: a case study of Frankfurt am Main during the Weimar period", Discussion Paper Series (Graduate School of Economics, Hitotsubashi University), No. 2014-12, September 2014, pp. 1-21.

「特集にあたって―現代都市の形成とガバナンス：英・独・日の比較史―」（共著）『一橋経済学』第 10 巻第 1 号，2016 年 7 月，1-5 頁。

「『社会国家』の形成と都市社会政策の展開―ワイマール体制成立前後のハンブルクにおける失業扶助を事例に―」『一橋経済学』第 10 巻第 1 号，2016 年 7 月，35-64 頁。

"From Luxury to Necessity: Frankfurt am Main as the Pioneer of Urban Electrification", Discussion Paper Series (Graduate School of Economics, Hitotsubashi University), No. 2016-12, December 2016, pp. 1-31.

"Communal Unemployment Insurance in Wilhelminian Germany: A Case Study of the Greater Berlin Administration Union", Satoshi Baba (ed.), Economic History of Cities and Housing (Monograph Series of the Socio-Economic History Society, Japan), Springer, 2017, pp. 67-85.

「『特殊ヨーロッパ的なるもの』から地域主義へ―増田四郎の地域史構想―」森宜人・石井健（編著）『地域と歴史学―その担い手と実践―』晃洋書房，2017 年 11 月，205-227 頁。

*「近現代ヨーロッパ都市史における 20 世紀―「モダニティ」の変容を参照軸として―」『歴史と経済』第 237 号，2017 年 12 月，42-50 頁。

*"Die Entwicklung der städtischen Arbeitslosenfürsorge während des Ersten Weltkrieges: Fallstudie zur Hamburgischen Kriegshilfe", Moderne Stadtgeschichte, 2/2017, Dezember 2017, S. 112-132.

（c）翻訳

ヴォルフガング・バウワー著（大津留厚監訳／森宜人・柳澤のどか訳）『植民都市青島 1914-1931 年―日・独・中政治経済の結節点―』昭和堂，2007 年 2 月〔共訳：第 1 部および第 3 部担当〕。

カール・ランプレヒト著（森宜人監訳／東風谷太一・志田達彦訳）『中世におけるドイツの経済生活―結語―』一橋大学社会科学古典資料センター Study Series No. 70（2015 年 3 月）。

フリードリヒ・レンガー（森宜人訳）『近代のメトロポリスを定義する―19 世紀中葉～20 世紀中葉の万国博覧会を手が

かりに―』一橋大学大学院経済学研究科　CCES Discussion Paper Series. No. 63（2016 年 3 月）。

カール・ビュッヒャー著（森宜人訳）『現在と過去の大都市』一橋大学社会科学古典資料センター　Study Series No. 73（2017 年 3 月）。

（d）その他

「書評：森下嘉之『近代チェコ住宅社会史―新国家の形成と社会構想―』北海道大学出版会，2013 年」『歴史と経済』第 224 号，2014 年 7 月，44-45 頁。

「書評：川越修・矢野久著『明日に架ける歴史学―メゾ社会史のための対話―』ナカニシヤ出版，2016 年」『図書新聞』3278 号，2016 年 11 月，3 頁。

「書評：長屋政勝著『近代ドイツ国家形成と社会統計―19 世紀ドイツ営業統計とエンゲル』京都大学学術出版会，2014 年」『社会経済史学』第 82 巻第 3 号，2016 年 11 月，153-155 頁。

「書評：馬場哲『ドイツ都市計画の社会経済史』日本経済評論社，2016 年」『歴史と経済』第 235 号，2017 年 6 月，69-71 頁。

B. 最近の研究活動

（a）国内外学会発表（基調報告・招待講演には*）

"Defending the municipal electric services against privatization: a case study of Frankfurt am Main during the Weimar period", 12th International Conference on Urban History (EAUH), NOVA University of Lisbon, 5th September 2014.

*"Die Entwicklung der Arbeitslosenunterstützung in der "Sozialstadt": Fallstudie von Groß-Berlin und Hamburg zu Beginn des 20. Jahrhunderts", Kolloquium der Forschungsstelle für die Zeitgeschichte Hamburg, 9. Februar 2015.

「失業をめぐる都市ガバナンス―第 1 次大戦～ワイマール期中葉のハンブルク―」2015 年度政治経済学・経済史学会秋季学術大会パネル・ディスカッション「現代都市の形成とガバナンス―英・独・日の比較史―」（組織者＝馬場哲），2015 年 10 月 18 日，福島大学。

*「趣旨説明：戦後西洋史学をふり返る―20 世紀末の『社会史』の勃興を中心に―」「歴史と人間」研究会シンポジウム，2015 年 12 月 19 日，一橋大学。

「『社会国家』の形成と都市ガバナンス―ワイマール体制成立前後のハンブルクにおける失業扶助を事例に―」「歴史と人間研究会」第 243 回例会，2016 年 3 月 21 日。

"From Luxury to Necessity: Frankfurt am Main as the pioneer of urban electrification", 13th International Conference on Urban History (EAUH), University of Helsinki, 25th August 2016.

*"Urban Electrification in interwar Germany: A Case Study on the Paradigma Shift in the Urban Energy", Workshop : Energy Transitions. Current Understanding and Future Directions, Hitotsubashi University, 26th November 2016.

*「書評：馬場哲『ドイツ都市計画の社会経済史』日本経済評論社，2016 年」ドイツ資本主義研究会（ADWG. N.F.），2016 年 12 月 4 日，青山学院大学。

*"Die Arbeitslosenunterstützung und Urban Governance: Hamburg in der Übergangszeit von der Sozialstadt zum Sozialstaat", Forschungskolloquium zur Europäischen Geschichte, Universität Regensburg, 17. Januar 2017.

「『特殊ヨーロッパ的なるもの』から地域主義へ―増田四郎の地域史構想―」社会経済史学会第 86 回全国大会パネル・ディスカッション「地域の歴史性を問いなおす―西洋史学の視点から―」（組織者＝森　宜人），2017

年 5 月 28 日，慶応義塾大学。

「近現代ヨーロッパ都市史における『長い 20 世紀』」「歴史と人間」研究会第 254 回例会，2017 年 7 月 1 日，一橋大学。

「危機下の社会国家と都市自治体―世界恐慌期ハンブルクにおける雇用創出―」社会経済史学会第 87 回全国大会自由論題報告，2018 年 5 月 19 日，大阪大学。

*"Die gleichzeitige Entwicklung der „modernen Stadt“ in Japan und Europa: Transnational vergleichende Studie zum „Urban Governance“", International Workshop "Japanese and European Urbanisation in Comparison", Universität Regensburg, 3. August 2018.

（b）国内研究プロジェクト

「都市ガバナンスの比較史的研究―日本，ドイツ，イギリスを事例として―」，日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（B），東京大学，2013 – 2015 年度，研究分担者（研究代表者：馬場哲氏）。

「ワイマール期ドイツの失業者救済における『社会都市』―『社会国家』との関係を軸に―」，日本学術振興会科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C），一橋大学，2014 – 2016 年度，研究代表者。

「失業をめぐる都市ガバナンスの史的研究―世界恐慌期ドイツを事例に―」，日本学術振興会科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C），一橋大学，2017 – 2019 年度，研究代表者。

（d）研究集会オーガナイズ

現代史研究会，2014 年 4 月 12 日，一橋大学。

現代史研究会，2014 年 5 月 10 日，法政大学。

現代史研究会，2014 年 6 月 29 日，一橋大学。

現代史研究会，2014 年 7 月 19 日，一橋大学。

現代史研究会シンポジウム，2014 年 11 月 1 日，共立女子大学。

比較地域史研究会，2015 年 6 月 27 – 28 日，一橋大学。

「歴史と人間」研究会シンポジウム，2015 年 12 月 19 日，一橋大学。

一橋大学現代経済システム研究センター経済史ワークショップ，2016 年 1 月 21 日，一橋大学。

比較地域史研究会，2016 年 6 月 4 – 5 日，一橋大学。

一橋大学現代経済システム研究センター経済史ワークショップ，2017 年 4 月 15 日，一橋大学。

一橋大学経済研究所経済制度研究センター／経済発展研究会，2018 年 10 月 9 日，一橋大学。

C. 受賞

第 2 回社会経済史学会賞（社会経済史学会，2006 年）

第 5 回政治経済学・経済史学会賞（政治経済学・経済史学会，2010 年）

6. 学内行政

（b）学内委員会

附属図書館委員（2012 年 4 月 – 2014 年 3 月）

学部教育専門委員（2014 年 4 月 – 2016 年 3 月）

入学試験実施専門委員（2016 年 4 月 – 2017 年 3 月）

社会科学古典資料センター専門委員（2016 年 10 月 – 2018 年 3 月）

入学試験実施専門委員（2018 年 4 月 － 2020 年 3 月）

7. 学外活動

（a）他大学講師等

関東学院大学経済学部・非常勤講師（2012 – 2013 年度）

東京学芸大学教育学部・非常勤講師（2012 – 2016 年度）

早稲田大学政治経済学部・非常勤講師（2013 – 2018 年度）

東京経済大学経済学部・非常勤講師（2014 – 2015 年度）

首都大学東京都市教養学部・非常勤講師（2014 – 2015／2018 年度）

金沢大学人文学類・非常勤講師（2016 年度集中講義）

明治大学政治経済学部・非常勤講師（2016 – 2017 年度）

東京大学文学部・非常勤講師（2017 – 2018 年度）

（b）所属学会および学術活動

社会経済史学会（幹事 2016 – 2018 年）

政治経済学・経済史学会（研究委員 2008 – 2011 年，編集委員 2011 年 － ）

ドイツ資本主義研究会（ADWG. N.F.）（事務局 2010 – 2012 年）

日本西洋史学会（第 67 回大会準備委員 2016 – 2017 年）

現代史研究会（運営委員長 2013 – 2014 年）

（d）高校生向けの出張講義・模擬講義

「研究室訪問」駒場東邦高等学校，2016 年 3 月。

（e）その他（公的機関・各種団体・民間企業等における講演等）

「都市から読み解く近代ヨーロッパの経済史」世田谷市民大学，2016 年 9 – 12 月。

9. 一般的言論活動

「時計台再考」『HQ (Hitotsubahi Quarterly)』Vol. 43，2014 年 7 月，51 頁。

「一橋大学の授業【経済学部】西洋経済史」『HQ (Hitotsubahi Quarterly)』Vol. 54，2017 年 4 月，22-23 頁。